浅草を食べる

古川緑波

青空文庫

十二階があったころの浅草、といえば、震災前のこと。中学生だった僕は、活動写真を見るために毎週必ず、六区の常設館へ通ったものだ。はじめて、来々軒のチャーシュウ・ワンタンメンというのを食って、ああ、何たる美味だ！　と感嘆した。

来々軒は、日本館の前あたりにあって、きたない店だったが、このうまかったこと、安かったことは、わが生涯の感激の一つだった。少年時代の幼稚な味覚のせいだったかも知れないが、いや、今食っても、うまいに違いない、という気もする。

支那料理は、五十番や品芳楼もあったが、何と言っても来々軒が圧倒的だった。

今の松竹座の横、六区への道に、オーギョチという、これこそは浅草だけにしか無い、不思議な食いものがあった。台湾産の植物からつくったとかいう、ところてんの如き、怪しげな、食いもの（というより飲みものに近い）だった。愛玉只と書いて、オーギョチと読むんだから、よほど不思議なことがお分りだろう。震災後は見かけたが、今はない。

そのオーギョチの、何とも形容出来ない、甘ずっぱい味を、ふと思い出すことがある。

みつ豆の舟和も古い。芋ようかん、あん玉の舟和、これは今日まで続いている。

仲見世まで行くと、観音様へ向って右の裏通りに、だるま、宇治の里などという、今で言えば、大衆向きの料理屋があった。これは中学生以前、まだ子供だったころ、父母に連れられて、よく行った。たまご焼だの、きんとんが、雀躍したい程うまかった。

震災後の浅草は昭和八年に、笑の王国という喜劇団を結成して、僕は喜劇役者になり、三年間も、毎日浅草に出ていたのだから、ずいぶん、浅草中の食いものには、馴染んだ。

今半、ちんや、松喜の牛鍋（すきやきとは言わなかった）から、中清、清水、天藤の天ぷら、金田の鳥、と書いていて区役所横丁の雑居屋のシチュウは、うまかったなあ。（俺はどうして、食いもののことになると記憶がいいんだろう？）

話をもとに戻して、昭和八、九年だ。新仲見世の、みやこという小料理屋、そこが、うまくて安くて、こたえられなかった。鍋ものがよかった。あんかけ豆腐が、十銭だった。僕は、三年間を三日にあけず、みやこへ通ったものだった。戦後は、浅草で再開せず、銀座へ出たが、もはや高級店である。

浅草独得（ではないが、そんな気がする）の牛めし、またの名をカメチャブという。屋台でも売っていたが、泉屋のが一番高級で、うまかった。高級といっても、普通が五銭、大丼が十銭、牛のモツを、やたらに、からく煮込んだのを、かけた丼で、熱いのを、フウフウいいながら、かきこむ時は、小さい天国だった。

話は飛んで、戦後の浅草。ところが、僕、これは、あんまり詳しくない。それに、浅草自体が、独得の色を失って、銀座とも新宿ともつかない、いわば、ネオンまばゆく、蛍光灯の明るい街になってしまったので、浅草らしい食いものというのが、なくなってしまった、ということもある。

鳥の金田も、牛肉のちんやも、天ぷらの中清も、みんな再開したが、それらの店も特に浅草らしい、においは持っていない。

天ぷらの中清で、思い出した。浅草の食いもの店からスターが何

人か生まれている。中清の息子が、新東宝の中村竜三郎。牛肉の米久の娘が松竹の泉京子だ。

米久の娘さんです、と言って紹介された時、僕は、このグラマーを見ていて、食欲をおぼえた。

それから、トンカツの香登利の一人息子が歌手の高橋伸。

浅草から、こんな人たちが巣立ったというのも、時代の波という奴でしょうな。

浅草が浅草くさくなくなった代りに、銀座に出しても、ひけはとらないというような立派な店も多くなった。喫茶のアンジェラスあたりも、きれいだし、コーヒーは、うまい。洋食店なども高級なのがかなりある。

が、それにさからうように、浅草式で押し通しているところもあって、洋食のヨシカミ、ぱいちなどは僕愛用の店である。

が、それらにもまして、片手洋食のベルを忘れてはなるまい。片手とは、五だ。洋食何品によらず一品五十円というんだから、ちょっとおどろいて貰いたい。で、それが決してひどいもんじゃないんだから嬉しい。

もう一つ、これこそは浅草独特、絶対他にないのが、飯田家の天ぷらのすしだ。

天ぷらの載っているすし。八個ぐらいあって一人前百円也。味は読者よ、いろいろと想像なさるがよい。

青空文庫情報

底本：「ロッパの悲食記」ちくま文庫、筑摩書房
1995（平成7）年8月24日第1刷発行
2007（平成19）年9月5日第3刷発行
入力：門田裕志
校正：仙酔ゑびす
2011年11月29日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

浅草を食べる

古川緑波

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/